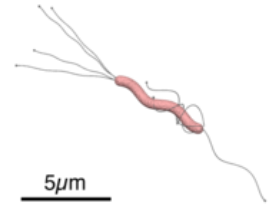


胃カメラなしのピロリ菌検査と除菌



ヘリコバクター・ピロリ菌とは

1982年に、強酸性の胃粘膜に菌が発見されたことはとても驚きでした。当時、慢性胃炎や胃潰瘍はストレスによる説が主流でした。しかし、その後に研究者自身による自飲実験により、ピロリ菌がこれらの病気の原因であることが証明されました。そして、この菌は“ヘリコ”(らせん状)、“バクタ”(菌)、“ピロリ”(胃の出口の幽門部)という名称が付けられました(1989)。

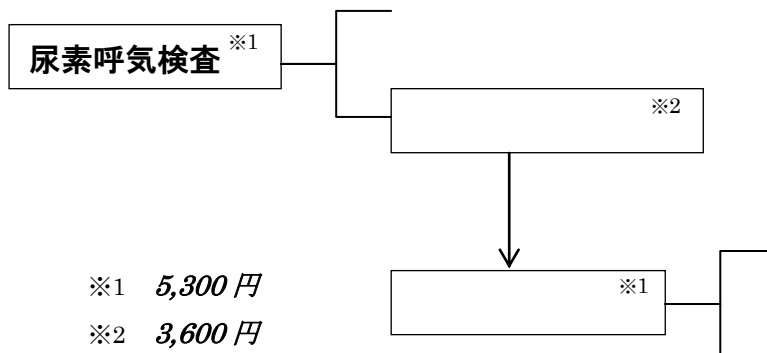
菌の感染が継続すると慢性萎縮性胃炎や胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃がん(1998・渡辺)などの胃疾患の他に、特発性血小板性紫斑病などの原因となることが分ってきました。そして、菌の発見当時から抗生剤などによる除菌が考えられてきました。

保険適応と除菌の関係

我が国において2000年、消化性潰瘍に対するピロリ菌の検査、除菌が保険適用になりました。その後、早期胃がんや特発性血小板紫斑病にも保険が適応されました(2010)。しかし、現状では保険診療が可能なのは、「胃カメラにより診断が確定したもの」に限られています。

そこで胃カメラなしで検査、除菌を希望される方に、全額自己負担ですが下記の方法で「ピロリ菌除菌」を行う方法があります。

除菌法の流れ



メモ

- ・1919年(大正8年)に日本の小林六造博士がスピロヘーターとしてこの菌を英文で発表しています。しかし、当時は信じられなかったのです。
- ・ピロリ菌は血液型に関して「O型にのみ結合するタイプ」と「どの血液型にも結合するタイプ」があります。以前からO型の方は消化性潰瘍に罹りやすいことが言われていました。
- ・ピロリ菌の除菌により食道炎や食道がんの発生が多いことより、ピロリ菌は食道の防御になっているという説もあります。